

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		メルシーハウス		公表日		2025年 3月 8日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	0	・広々としているので様々な活用が出来る ・遊ぶスペースと勉強スペースに分けている。	・集中したい子の為に個室を増やす方が良い。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	0	4		・個別対応が必要な児童が多く、職員が足りない。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	2	・クールダウン室があるので、落ち着いて過ごしたり、緊急時の対応に使える。	・入口までの階段が多い、暗いなど適さない点がある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	1	・広々としているので、それぞれの遊びの邪魔になりにくく過ごしやすくなっている。	・ワンフロアになっているので落ち着いて過ごしたい子には厳しいところもある。 ・広々としている分隙間等も多く、細かい所の丁寧な清掃が必要。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	0	・クールダウン室をいつでも自由に使うことが出来る。	・常に使っている子もいるので、もう1部屋あると良い。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	0	・支援終了後の時間に目標設定と達成度、振り返りを行っている。	・勤務体制等調整し、支援開始前にも行いたい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	・頂いたご意見を参考に、検討、確認、実施を行い、業務改善に努めている。	・勤務形態に関わるところもあり、改善が難しいところもある。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	2	・意見を反映し、業務改善につなげている。	・勤務形態のずれ等から、意見を把握する機会の確保が難しいため、意見が出にくい環境になっている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	0	・巡回支援等を活用し、外部評価を頂き、業務改善に努めている。	・定期的な外部評価を行い、業務改善につなげていきたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	1	・研修を実施し、気づきや質の向上につなげている。	・研修の機会を増やす必要がある。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	0	・支援プログラムはいつでも閲覧可能になっている。	・プログラムの内容を見直し、定期的に更新していく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4	0	・計画を作成し、職員間でいつでも閲覧可能になっている。	・計画作成の時間の確保を行い、多くの職員が参画していく。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	0	・計画作成においては職員の意見も反映し、共通理解のもとで取り組んでいる。	・支援内容や計画作成の相談の時間を確保していく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	0	・計画書は常に閲覧可能である。毎回計画書を確認しながら、PDCAサイクルに基づく支援の振り返りを行っている。	・計画に沿った支援となっているかを確認し合う機会を多く設けていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	2	・子どもに応じたアセスメントを行い、状況を確認している。	・ツールを用いたアセスメントがあまり出来ないため、フォーマル、インフォーマルを組み合わせアセスメントしていく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	0	・各項目について具体的な支援方法を設定している。	・本人支援だけでなく、家族支援や移行支援、地域支援にも職員が参画していく事を理解し、支援にあたる。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	1	・プログラムの立案を各職員が担当し計画している。	・各職員がプログラムを担当し立案を行っているが、1つのプログラムを複数人で決めることがあまりない。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	0	・毎日違うプログラムになるよう設定している	・プログラム内容を増やしたり、夏祭りなどの季節行事を用意し、毎月の楽しみにつながるようにしていく。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	0	・個別活動、集団活動それぞれの内容を取り入れて支援を行っている。	・計画の書式としてどの項目が個別活動や集団活動にあたるのかをより明確にしておく事で、支援の方向性を分かりやすくしていく。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	1	3		・就業時間の関係で支援開始前の打ち合わせが出来ない。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	1	・支援終了後にその日に行われた支援の振り返りを行っている。	・就業時間の関係で職員揃っての打ち合わせが出来ない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	0	・支援内容や目標設定について記録し、振り返りを行うことで支援の検証や改善につなげている。	・改善した結果も記録し、さらなる改善につなげていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	0	・モニタリングを行い、計画の見直しを行っている。	・問題行動等が出た時には定期的なサイクルに関わらず、すぐに計画の見直しを行う。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	2	2	・基本活動を組み合わせで行い、創作活動は必ず毎月全員に対して実施している。	・地域交流の機会があまりなく、実施できていないところがある。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	0	・活動プログラムには子どもの要望も取り入れ、参加しやすい工夫を行っている。	・好きな活動プログラムを選べるようにして取り組む事を取り入れていく。
	関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	1	・会議には子どもの状況をよく理解した者が参画している。
27		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	2	・サービス担当者会議を実施し、主治医や他に利用している放課後等デイサービス事業所の職員など、様々な職種の人と連携を行っている。	・事業所が主体となって取り組む事は少なく、相談支援専門員からの打診で外部との連携を取ることが多い。
28		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3	1	・学校からの年間計画等の情報や送迎時間の調整の連絡を行っている。	・学校の行事予定の変更や送迎時間の変更などは保護者を通して行っており、学校からの直接の連絡は少ない。
29		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	3	・契約時に就学前に利用していた機関や事業所の様子について確認している。	・就学前に利用していた保育所等との情報共有はあまり出来ていない。
30		学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	2	・学校を通して、支援内容の情報を提供している。	・直接障害福祉サービス事業所に対して情報提供が出来ていない。
31		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	2	・児童発達支援管理責任者が研修に参加している。	・児童発達支援管理責任者のみが参加していることが多いので、直接対応している職員も参画していく。
32		放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	3	・交流の企画をしていたが実現できなかった。	・引率や安全上の観点から、現在の職員体制では地域行事への参加が難しい。
33		（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	1	・児童発達支援管理責任者が協議会に参加している。	・児童発達支援管理責任者のみが参加していることが多いので、直接対応している職員も参画していく。
保護者への説明等	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	0	・サービス提供記録で伝える他、ライン等で保護者と連絡のやり取りをしている。	・送迎時にも保護者と直接のやり取りを行い、共通理解に努める。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	3		・家族が参加できる研修の機会の提供ができていない。年間行事等に組み込み、実施していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	1	・契約時に運営規程や利用者負担等について説明を行っている。支援プログラムはホームページに公表し、いつでも閲覧できる状態になっている。	・利用者だけでなく、職員にも周知徹底を行う。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	0	・支援内容や計画書の内容については、子ども主体で保護者の意向も踏まえながら設定している。	・保護者のニーズが主体となってしまわないように気を付ける。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4	0	・計画書は必ず内容を確認して頂き同意を得ている。	・新たに設定した支援内容について、計画書を用いて説明を行うようにする。
保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	0	・定期的な面談の他、相談内容に対し、適切に対応を行っている。	・事業所側から、相談内容を募集するなど、保護者に対してアプローチを行っている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	3		・保護者会は実施できていない。年間行事に組み込み保護者に周知をしたらうで実施していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	1	・苦情については迅速に対応を行い、原因究明した上で再発防止に努めている。	・苦情の対応だけでなく、体制を整備した上での周知も行う。

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4	0	・SNSを活用し、活動内容を保護者に発信している。	・活動内容以外にも日々の様子や療育の取り組みの様子なども伝えていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0	・個人情報につながる書類は鍵のかかる場所に保管し、子どもや外部の人が閲覧できないようになっている。	・書類の配布間違いなどが起こらないよう、複数人で確認していく。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	0	・イラストやカードを用いた視覚支援を行ったり、活動開始時をタイマーやアラームなどで知らせることも行っている。	・好きな動物やキャラクターを用いたりするなど、子どもにとって取り組みやすい環境を作っていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	3		・地域交流の機会があまりない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	1	各種マニュアルを策定し、事業所内だけでなく、送迎車内にも配置し、いつでも確認できる状態にしている。	・訓練は行っているものの、各種マニュアルの内容について細かく周知できていない。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	0	定期的に避難訓練を実施し、訓練に取り組んでいない子どもがいないように、期間内に複数日実施している。	・BCPの内容を定期的に確認し、更新していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	0	・契約時に既往歴や服薬状況を確認し、必要に応じて対応マニュアルを作成している。	・てんかんの対応について研修を実施し、対応方法を確認しておく。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	1	3	・契約時にアレルギーの有無を確認している。	・食物アレルギーの児童がいなため、現在は特に対応を行っていない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	1	・安全管理に基づいた計画を作成している。	・研修や訓練を定期的に行っていく必要がある。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	1	・飛び出しやパニックによる他害等の可能性がある子どもに対しては、あらかじめどのように対応するかを周知し、了承を得ている。	・定期的に対応方法の見直しを行う。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	1	・ヒヤリハットの内容を検討し、再発防止に向けた取り組みを策定し、実施している。	・定期的にヒヤリハットになり得ることが無かったかどうか確認し、その都度検討していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	0	・虐待の研修を実施し、虐待についての理解と防止に努めている。	・虐待に対する意識が職員によって違わないよう、虐待につながりかねない事例を共有しておく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	0	・身体拘束の内容について情報共有し、やむを得ず身体拘束を行う恐れのある子どもには事前に説明を行っている。	・避難訓練等の様子から有事の際にパニックを起こすなど場合によっては身体拘束を行う可能性がある事を伝え、計画書に記載する。